

## アジア日本研究ネットワーク 第5回会議

# アジアにおけるパンデミック後の日本学を考える

日時：2022年3月5日(土) 10:00~17:40 (9:30会場) (日本時間)

会場：オンライン (Zoom) 開催

参加費：無料 (下記 QR コードより参加受付)

2019年から現在まで続く新型コロナウイルス感染症の拡大は、われわれの社会や生活を根本から変えている。100年に一度とも言われるパンデミックの影響は、日本の社会、文化、言語など多方面において、長期的な変化をもたらすであろう。本会議ではパンデミックがもたらした影響、そしてパンデミック後を見据えた日本の変化について、各自の立場から話題を提供する。パンデミックを通じて見えてきた日本の文化や社会について、活発な議論が行われることを期待している。

### <基調講演>

松永伸司 (京都大学 大学院文学研究科 准教授)

芸術と現実のインタラクション：COVID-19 以後の表現とビデオゲーム用語から考える

日本時間

10:00-10:05 開会の挨拶 (呂佳蓉・国立台湾大学)

10:05-11:35 基調講演 (松永伸司・京都大学)

<研究発表> (発表 20分/質疑応答 10分)

11:40-12:10 朴麗玉 (嶺南大学)

コロナ禍における日本語と日本文学の教育の事例

13:00-13:30 呂佳蓉 (国立台湾大学)

日英中の伝達動詞における一考察— (間) 主観性をめぐって

13:30-14:00 サランヤル・シューショートケオ (チューラーロンコーン大学)

日本のことわざにおける植物に関する知恵

14:10-14:40 河合淳子 (京都大学)

オンライン留学プログラムのインパクト— 学生の参加動機、成果についての評価へのインパクトを中心に—

14:40-15:10 佐々木幸喜 (京都大学)

Kyoto iUP 生を対象とした日本語クラスにおける日本人チューターとの「話す活動」

<学生研究発表> (発表 15分/質疑応答 15分)

15:30-16:00 森内こゆき (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士一貫課程 2年)

物語り (narrative) としての地域：岩手県遠野市における『遠野物語』の文化資源化の事例から

16:00-16:30 パーニットウィブーン・チャラントーン (チューラーロンコーン大学文学部修士課程外国語研究 2年)

樋口一葉小説における娘のイメージ— 家長制度の脱構築—

16:30-17:00 松田康介 (京都大学大学院教育学研究科修士課程 2年)

言語芸術におけるジェンダー「越境」の知識社会的検討— 戦後短歌を手がかりとして—

17:00-17:30 張子康 (京都大学大学院文学研究科博士後期課程 3年)

明清時代通事制度の変遷

17:30-17:40 総括&閉会の挨拶

参加申込 QR コード

締切：3月2日(水) 24時—  
3月4日(金) 12:00(正午)



申込フォーム URL：<https://forms.office.com/r/MUTWvn1BdA>

問い合わせ先：nishijima.kaoru.5c@kyoto-u.ac.jp (アジア日本研究ネットワーク事務局・西島)

アジア日本研究ネットワークとは：アジア日本研究ネットワークは2014年1月に発足。各国の日本研究及びその関連分野において研究教育に携わる人たちが集い、議論する場となることを目指し、活動を行っている。